



Love is all that matters

埼玉県鍍金工業組合 理事長 伊藤 麻美
(日本電鍍工業株式会社)

うちには元保護犬のチャイがいます。

超反抗期真っ只中の息子がどうしても保護犬を飼いたいと言い始めたのがきっかけです。

ワンちゃん好きな息子が犬と一緒にいたいと願う彼の気持ちはわかっているものの、大切な命を預かるのです。

簡単にいいよ、とは言えませんでした。

当時ほとんど口を利かない“ザ10代男子”が、犬の話になると態度を一変させていました。

犬猫の保護団体や譲渡会の情報を探してきては行ってみようと積極的に行動をする息子に私も引き込まれていきました。

そして出会ったのがチャイでした。

チャイは山口県の山中で保護され、殺処分リストに入っていたところを保護団体が引き受け、東京にやってきた野犬の子です。

トライアルからスタートしたチャイですが、子犬とはいえ、親からしっかり野犬教育を受けていたので、人間への恐怖心が強く、人懐っこい子犬のイメージとは縁遠いものでした。

怖くてクレートから出られず、出てきても隅に入り込み動かない。

まるで自分の存在を消そうとしているかのようでした。

このまいうちにいて幸せになれるのか？などと考える日々が続きました。

それでも息子は辛抱強くチャイのペースに合わせてながら接していくにつれてチャイの表情も、行動も変わっていきました。

はじめてお散歩に行けたのは、2か月以上経ってからでした。

すれ違う人や、なびく旗、ゴミ収集車に怯えて歩けなくなることもありましたが、継続していき、約1年、ようやくお散歩らしくなっていました。

あれから4年、まだまだビビリーチャイは健在ですが、今では人にも慣れ、お友達もたくさんできました。

月に何回かは会社に出社します。

当社は子供も動物もいつでも大歓迎！の会社です。

社員たちもワンちゃんを連れてくることがあります。

事務所にいるワンちゃんに会いに来る社員がいっぱいいいて、確実に生産性は落ちている(笑)と感じますが、それ以上に笑顔が増えるので私は大賛成です。

欧米の先進国ではペットショップでの生体の販売を禁止しているケースが多い中、日本はペット産業が拡大していながら、ショップでの大量販売が行われ、売れ残った犬猫を無責任に放置していることがあります。

お金儲けが一番にならない経営。

継続・成長・発展、しっかり目的意識を我々経営者がもつことで社会全体に良い影響を与えられたらと願います。